



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2023

6月9日  
(金曜日)

TBK

# 国内の間接部門統合

## 事業構造改革案公表 米中拠点効率化も

TBKは、事業構造改革案を公表した。今年中にTBKと国内グループ会社4社の間接部門の統合などに着手するほか、米国拠点も間接部門の効率化や人員削減に取り組む。中国ではブレーキ摩擦材の生産再編を検討する。同

社の2023年3月期連結業績（日本基準）は、売上高で535億2千万円（前期比4・5%増）ながら6億2千万円の営業赤字を計上した。一連の事業構造改革によるコスト圧縮で黒字化を急ぐ。

7日、都内で開いた決算説明会で尾方警社長が説明した写真。同社は、オイルポンプなどを手がける東京精工

（福島県玉川村）とティービーアール（山形県鶴岡市）、鋳鉄品を製造する木村可鍛（福島県白河市）、工作機械の製作会社サンテック（浜松市北区）を傘下に持つ。今後、各社の間接機能を集約し、業務効率向上や間接人員の削減を目指す。東京精工とティービーアール、木村可鍛についてはTBKへの経営統

合も視野に入れる。生産現場の業務効率化では、スマートフォンなどで日々の在庫や生産、不良、出荷などの状況が確認できる管理システムを開発して、24年を目標に国内拠点に導入する。また、ロボットをフル活用した自動化や省人化にも取り組む。米国拠点なども同様の取り組みを進める。

中国事業に関しては、ブレーキ摩擦材の生産拠点の再編などを検討する。同社が手がけるブレーキ摩擦材は中国にある4拠点で生産する。コロナ禍のロックダウン（都市封鎖）や米中経済圏のデカップ

リング（分断）などの供給リスクの高まりも踏まえ、中国拠点を再編することもインなどでの生産を検討する。

23年3月期は、主力であるトラック向け部品が国内車両の生産制約で減少する一方、東南アジア諸国連合（ASEAN）向け輸出が堅調だった。円安効果もあり連結売上高は微増だったが、原材料費やエネルギー費の高止まりで営業赤字を強いられた。今期は部品売り上げの回復や価格転嫁効果を見込み、連結売上高570億円（前期比6・5%増）、営業利益10億円を見込む。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。